

デイケアセンターの粘土遊びで作った
首飾りをつけたシュチョナ(11歳)



冬期募金にご協力ください

世界の人々と共に生きるために、JOCSの保健医療活動にご協力ください。

 **JOCS** 医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

2023

「マリアム」

Bangladesh派遣ワーカー 岩本直美

マリアムを紹介してくれたのは、JOYJOYプロジェクトのデイケアに通う子どものおじいさんだった。「近所におかしな子どもがいるよ。あんた見るか?」と言ってマリアムの家へと案内してくださった。1年ほど前のことだ。3歳ほどに見える、色白で小柄なマリアムは、母親にしがみついたり、土間を走ったり、一瞬もじっとしていなかった。祖母が抱こうとしたが、その瞬間祖母は「いてて!」と身体をよじって声を上げ、そのすきにマリアムは父親の膝に駆け上がった。マリアムがつねったのだ。彼女のつねりは相当痛いようだ。マリアムのそばに黙ったまま無表情に座っていた、やはり色白の母親が「いつも、こうなの。だからマリアムは自分たちしか看られないの」とぼつりと言った。

マリアムは8回目の妊娠で授かった子どもであった。父親は、妻の流産が続くことをひどく苦しめ、6〜7回目くらいから眠れなくなり心の病を負ったと母親は言った。自閉症と知的な障がいがあり常に動き回るマリアムを受け入れてくれる借家を探すのは難しいようで、祖母の家の周辺を転々と

してきたと言う。父親は小さな雑貨屋を営むが、体調が良くない日もあり収入は限られていた。その一方で「子どもは良くなるはずだ」とマリアムの障がい者手当を申請することを拒み、そのことを祖母はよくなじっていた。

無表情で無口な母親が、マリアムと共にJOYJOYプロジェクトのデイケアに通うようになってしばらくしてから、ぼそりと言った。「出産のとき以来、マリアムに必要なお金は全部うちの親と兄姉が助けてくれているの」。驚きはしなかった。そしてなぜ障がい者手当の申請をしないのかと問うと「夫がしたくないっていうから」とだけ答えた。マリアムの母親は10年の教育を受けた誇り高い女性であったが、夫に従順に暮らしてきた。彼は妻が携帯電話を持つことを禁じ、彼女が誰とどこにいるのかを常にチェックした。

マリアムがJOYJOYプロジェクトに来ることは父親に何度も止められ、母親が近所の家の携帯電話を借りて助けを求めてきたこともあった。容易ではなかったが、その後母親はヘルパーとしてJOYJOYプロジェクトで働いてくれている。夫は最初のうちは反対したが、わずかな収入であっても家計が助かるので、そのうち何も言わなくなった。当初母親は「私は、デイケアに来る子どもたちの送迎に行くことはできない。マリアムのそばにいないといけないから、



マリアム(左)と母親

外には出られない」と言った。マリアムの様子を見ながら、母親が外に出なくても済むように仕事の内容を調整し、皆で支援した。しかしマリアムがスタッフのこともつねるようになったころ、送迎の役割を担うよう母親を励ました。これは、マリアムが母親不在で他者と過ごすことへの最初のチャレンジであり、私たちにとっても小さな決断と言えた。しかし、多分大丈夫でしょう、という思いが自分の中にはあった。マリアムのつねりは彼女の愛情表現であり、しかもそのころにはマリアムの母親は笑うようになっていたからである。

ある日母親が言ってきた。「マリアムの

障がい者手当の申請手続きがしたい。「お連れ合い、大丈夫なの?」と問うと「夫には言わない。これはマリアムの権利なんだから、私がする」と母親はきっぱりと言った。一方で、毎週休日に父親は母子を伴い伝統治療師にお伺いを立てに行く。5歳半のマリアムが、母親がいなくても他児と一緒に遊び、じっと人の顔を見つめて応答できるようになってきたのも、すべて治療師の祈祷のおかげと父親は信じている。それでもよい。この壊れやすそうな家族が、もっと壊れやすそうなマリアムの命を守り育もうとする間は、そのお手伝いができればうれしい限りである。



JOYJOYプロジェクト

Bangladesh北部の町ディナジプールで、2022年に始まったプロジェクト。現地の知的な障がいのある子どもとその家族を支援しています。



診察をする岩村昇元ワーカー
(ネパール 1962~80年)

1960年、日本で最初の国際協力団体のひとつとしてJOCSは創立されました。日本がアジアの人々に対して犯した戦争への深い反省に立ち、和解と平和の実現を願いながら今まで保健医療活動が続けてきました。国や宗教の違いをこえて世界の人々と共に生きるために、JOCSをお支えください。

ご支援くださっている方々の声

岩村昇先生の「みんなで生きる」という言葉が、JOCSへの想いの原点です。一緒に働けませんが、祈りと献金で「ともに」生きるお手伝いをさせていただきます。

(70代、S・K様)

自分ができる取り組みで、少しでも多くの人々が平和になってほしいと思います。

(20代、K・D様)

📌 ご寄付の方法

同封の払込取扱票をお使いください。または次の口座にお振り込みください。

郵便振替

ゆうちょ銀行

口座：日本基督教海外医療協会の
募金部 00170-3-13986

銀行振込

三井住友銀行 高田馬場支店

日本基督教海外医療協会

口座番号：普通 4186361

銀行からのお振込やネットバンキングでは、JOCSには口座名義人の名前しか通知されません。ご送金の際には、お名前、ご住所、電話番号を、メール(info@jocs.or.jp)またはFAX、郵送で東京事務局(末尾参照)まで必ずお知らせください。

クレジットカード

1,000円から

ホームページ(<https://www.jocs.or.jp/support/bokin>)、または右のQRコードからお手続きください。



📌 ご入会のお願い

JOCSのサポート 会員になってください

同封の払込票の「入会します」に☑を記入ください。
サポート会員には、会報誌『みんなで生きる』(隔月発行)をお届けします。

公益社団法人としてのJOCSを構成する「社員会員」という制度もあります。社員会員をご希望の方は、払込票の余白に「社員会員」とご記入ください。

※社員会員は、総会の議決権、理事の選挙権及び被選挙権を持ちます。
※社員会費は寄付金控除の対象とはなりませんので、ご了承ください。
※社員会員の名簿は「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に基づき、内閣府に提出します。

☑ 当会へのご寄付・サポート会員の会費は、特定寄付金に該当し、寄付金控除を受けることができます。

☑ 遺産のご寄付・相続財産のご寄付に関するパンフレットがございます。ご希望の方は、東京事務局までご連絡ください。

* 当会へのご寄付、会費は8割が事業費、2割が管理費として使われます。

個人情報の取り扱いについて 当会は、皆様の個人情報を厳重に管理・保護するとともに、その取扱いにつきまして「個人情報の保護に関する法律」及び関連する法令その他の規範を遵守し、プライバシーの保護を行っています。詳しくはJOCSホームページの「プライバシーポリシー」(<https://www.jocs.or.jp/privacy>)をご覧ください。

JOCS役員 (五十音順)

会 長	畑野研太郎 (医師)
常務理事	大友宣 (医師)
理 事	植松功 (自営) 土居弘幸 (医師) 中富裕一 (高校校長) 名取智子 (JOCS事務局次長) 東岡牧 (看護師)
	本田まり (大学教員) 森田隆 (JOCS事務局長) 柳澤理子 (保健師、大学教員)
監 事	榛木恵子 (団体役員) 渡部芳彦 (歯科医師、大学教員)

公益社団法人 日本基督教海外医療協会

ホームページ <https://www.jocs.or.jp> E-mail info@jocs.or.jp

東京事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-51 電話：03-3208-2416 FAX:03-3232-6922

関西事務局 〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30 大阪聖パウロ教会3階 電話：06-6359-7277 FAX:06-6359-7278